とよなか環境 ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議ｱｼﾞｪﾝﾀﾞ21
発行責任者：茨木かづ子
連絡先：豊中市中桜塚1-24-20
環境交流センター内
Tel:06-6844-8611　Fax:06-6844-8668

この号のハイライト

P.1 総会/P.2 ホウ酸だんご・写真で元気/P.3 いもっこ隊員・野菜販売/P.4 水鳥一斉調査/P.5 環境交流センター/P.6 企業と環境/P.7 豊中市/P.8 スケジュール

２０１８年（平成３０年）夏号　NO.６２　（通巻第80号）

2018年度総会・記念講演会

第3次のスタートであらためて考えてみる

とよなか市民環境会議と、NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21の合同総会を6月25日（月）午後、青年の家いぶきで開催します。

記念講演では、滋賀県立大学の平岡俊一さんに「市民参加・協働による持続可能な地域づくり活動の展開～オーストリアでのローカルアジェンダ21の動向を中心に～」と題してお話いただきます。

平岡さんは以前、認定NPO法人気候ネットワーク（京都市）の研究員をしておられ、当時から地球温暖化対策や省エネ関係でNPOアジェンダとの関わりがありました。また、北海道教育大学に在職中には、近畿地域の環境パートナーシップ組織の研究として豊中の事例を調査・発表されたことなどがありました。環境政策・住民参加・ガバナンスなどが専門で、ご自身でも京都や北海道でNPO活動に携わっておられます。

「豊中アジェンダ21」のような地域での行動計画（ローカルアジェンダ21）は、日本では豊中市や京都市をはじめ、限られた地域だけで継続されている現状です。しかし、欧州オーストリアでは、現在でも国をあげてローカルアジェンダ21が積極的に推進されているそうで、平岡さんは現地での調査研究などもされています。

今年のとよなか市民環境会議の総会では、2年間にわたり策定作業が進められた「第3次豊中アジェンダ21（案）」が提案されます。また、策定過程で行った市民ワークショップでは、市民参加や環境活動の担い手についても多くの意見が出されました。

今回の記念講演を通して、市民参加や協働、持続可能な地域づくりについてあらためて考えるとともに、「豊中アジェンダ21」についても考え、みんなが意識を持って「第3次豊中アジェンダ21」の活動をスタートする！そんな記念講演になればと期待しています。　（廣田学）

2018年度総会

6月25日（月）

「青年の家いぶき」大会議室にて

豊中市服部西町4丁目13番1号　服部天神駅から約900メートル

第1部　記念講演　13:20～14:20

「市民参加・協働による持続可能な地域づくり活動の展開」

滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 助教 平岡俊一さん

第2部　とよなか市民環境会議の総会　14:30～15:00

事業報告、事業計画、「第3次豊中アジェンダ21」の策定など

第3部　とよなか市民環境会議アジェンダ21の総会　15:15～16:30

事業報告、事業計画、その他（役員改選や定款変更）など

生活部会

わいわいクラブ「ホウ酸だんご作り」

５月30日、今回で4回目となる「ホウ酸だんご作り」。今までの経験を活かして、初めてNPOアジェンダの会員がドキドキしながらも講師を務め、これまた初めて環境交流センターにて開催しました。

参加者は初めての方はもちろん「そういえばこの1年ゴキブリを見なかった」とホウ酸だんごの効能に驚いたリピーターの方などスタッフ合わせて総勢10人。

ホウ酸だんごの材料はホウ酸以外は小麦粉・玉ねぎ・牛乳・砂糖とまるで調理実習するかのよう。まずは玉ねぎをみじん切りにします。環境交流センターでの開催ならではのまな板代わりの牛乳パックの上で涙しながらの作業。それをミキサーにかけます。ドロドロになった玉ねぎを大きめのボウルに移し、他の材料を加えてこねていきます。耳たぶ位の軟らかさになったら平べったいおだんごを作ります。それを約1週間、陰干しすればホウ酸だんごの出来上がりです。実習後「思ったより簡単にできたね」「また来年も企画してください」など多くの感想を述べあって終了。

これを台所等ゴキブリの出そうな場所に置いておくと忌避効果によってゴキブリのいない快適生活（？）が過ごせます。ご近所さんと一緒にホウ酸だんごを置くとさらに効果的ですよ。

（畑洋子）

企画屋本舗

「写真で元気」とよなか四季彩園・服部ビオパーク

～ 撮影とクラフトづくりで、自分の想いを再発見 ～

3月18日、「写真で元気」をとよなか四季彩園・服部ビオパークで実施しました。

航空機騒音の緩衝エリア（ふれあい緑地）に、テニスコートやドッグラン、公園等があります。その一角には木立、田んぼや水路があります。豊中の自然を残そうと苦労して作られたビオトープです。NPO法人 豊島北ビオトープクラブと豊中市が協働で管理運営。維持にボランティアさんが汗をかいています。

自然学習センターは木造りで、居心地良い空間です。壁には豊中の在来の生き物や、訪れた猛禽類の写真。〝カムバック豊中の生きものたち〟のタイトルの下に、田んぼや水路の生物、猪名川の生物の水槽が並び、四季折々の花の写真も美しい。昆虫標本の数も半端ない。年間を通じ、野草つみや自然工作、ホタル観察など行事が盛り沢山。

参加者は思い思いにデジカメで景色や水槽の生物を撮影。私は、サギが水鏡に映る自分にうっとり？の瞬間を撮りました。

環境交流センターに移動。選んだ写真を、好きな模様の台紙に貼る。飾りやコメントをつけて発表。「あんなイイとこ、皆に紹介せな、もったいない！」心も体も元気になりました。

（井下祥子）

いもっこ隊員　春の活動（植え付け編）

花と緑のネットワークとよなか

「都会の真ん中で、農業体験！ 豊中市で給食の残りや、野菜クズなどを堆肥にしてそれを使って畑の野菜を育てるステキな活動に触れてきました」と参加者の方から感想いただきました。

子ども達、始めは醗酵した匂いに、「臭い～」と言ったりしていましたが、途中からはすっかり慣れて元気いっぱいでした。

このいもっこ隊員募集は、堆肥化施設「緑と食品のリサイクルプラザ」に隣接する農園で、子ども達に植え付け体験などをしてもらいながら野菜づくりや農業に興味や関心を持ってもらう事を目的にしています。5月26日のいもっこ隊員募集（植え付け編）では、さつまいもだけでなく里芋を植えたり、玉ねぎやスナップえんどうの収穫と、とよっぴー農園の看板作りや竹のお箸作りを行いました。当日朝に体調不良で次々に3組のキャンセルが入り、グループ分けを変えたり等ハプニングがありましたが、お昼ご飯を食べて小刀を使ってのお箸作りまで無事終えました。お箸作りは、アジェンダ21の竹炭プロジェクトさんが事前に準備して下さいました。

秋にはさつまいもも里芋も収穫できます。次回は、（ワクワク収穫編）として広報等で募集し、今回ご参加の方も別途お誘いできればと考えています。皆さんお楽しみに。

（高島邦子）

くらしかんでの野菜販売

「地産地消」デーとして、長年、続けられているくらしかんでの野菜販売に私は2015年5月から参加しています。その後、昨年の1月から会計報告の担当をするようになりました。まだまだ分からないところが多く、ようやく生産農家（仕入先）の顔を覚え始めたところです。

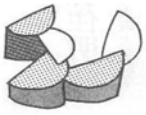
この間、皆さんの助けを受けてきましたが、私の感じる問題点を、挙げていきます。まず、くらしかんの建物内でやっているので、知っている人しか買いに来てくれません。外を歩いている人には中で野菜を売っているのは分かりません。そのため、10時開始前に並んでいる人しかお客はいません。開始15分後には、お客はパラパラです。

販売に携わっている者のモチベーションは高く、外を歩いている人を呼び込んだり、ビラを配りたいのですが、販売者は我々だけでなく10近い団体がいるので、勝手なことはできません。

次にお客はやはり値段で選ぶということです。天候不順でスーパーの野菜価格が高い時はよく売れますが、スーパーの値段が安くなると極端に売れ行きが悪くなります。できるだけ返品をしないで済むよう、売れ残りを身内で買うようにしていますが、いつもいつもできないし、そればかり続けていると記録上は完売になってしまい、問題は顕在しません。ただ、3月よりメンバーの提案でとよっぴーを売り始めました。これには喜んでくれる人も多く、やりがいを感じています。

以上のように、喜びや悩みを抱えてやっていますが、さて、いつまでできますやら。

（西村裕）



自然部会

積雪の中で行われた

水鳥一斉調査・2018＜豊中市内の池・川について＞

1月27日、大阪では珍しい積雪の中、市民の皆さんに呼びかけて水鳥の調査を行いました。水鳥一斉調査は今回で4回目になります。市内の池38ヵ所、河川11ヵ所を、9班に分かれて調査を行いました。9時30分開始の予定でしたが、不測の交通事情等で遅れた班もあったようです。班によっては十数ヵ所の池を回ったり、数㎞も河川を歩く班もあったりと積雪の中を大変な作業でした。

水鳥の減少傾向つづく

調査結果は「水鳥一斉調査・2018〈豊中市内の池・川について〉」として冊子にまとめ、関係部署、学校等に配布する予定です。水鳥総数は1,903羽（2004年）→1,642羽（2012年）→1,284羽（2018年）と減少傾向にあるようです。

水鳥の種別でみるとユリカモメが大きく減少したことと、オオバンが急増したことが注目されます。前回の調査前後から山ヶ池で急に目につくようになり、今では半数近くの池、70%近くの河川で見られるようになっています。ユリカモメの減少については、当日の天候か調査の時間帯が関係していたかもしれませんが激減しました。

オシドリ

2012年から、千里中央公園の安場池でオシドリが見られていますが、今回の一斉調査では、安場池で22羽、島熊山緑地の古池で24羽のオシドリが見られました。両池ともに水辺に豊かな緑がありドングリのなる木陰があります。

次の表は、池や河川で見られる鳥の種類、その両方で見られる鳥の種類です。比較的多く見られるものをあげましたが、数は少ないが多くの池や河川で見られる種類もあります。

水鳥の多い池を下の表で順に書きましたが、多くの種類が見られることもうれしいことです。多く見られる池がたくさんあるのは、何と言っても服部緑地です。この表には出ていませんが、うずわ池や、若竹池も毎年多くの水鳥が来ます。服部緑地の池だけで、市内の池全部の半数以上の数と種類を見ることができます。今年の冬はぜひ服部緑地にお出掛けください。

（山口寿）

水鳥のよく見られる池

池	所在地	個体数	種数
新宮池	服部緑地	94	11
山ヶ池	服部緑地	91	8
中池	服部緑地	55	7
安場池	新千里北町３丁目	34	6
広田池	広田町１	32	6
箕輪池	刀根山３丁目 99	26	10
猪名川池	利倉西１丁目 94-2	26	8
奥池	緑丘１丁目 65	26	4
羽鷹下池	小路１丁目	22	8

「水鳥一斉調査・2018＜豊中市内の池・川について＞」の冊子は、環境交流センターで閲覧できます。有料配布もございますので、ご希望の方は受付にお声かけください。

池や河川で見られる鳥の種類

池	河川	全体
ハジビロガモ	ユリカモメ	ヒドリガモ
ホシハジロ	ハクセキレイ(浅い川)	カルガモ
キンクロハジロ	セグロセキレイ(浅い川)	オオバン
オナガガモ	コガモ	カワウ
カイツブリ		

水鳥の種類多い順ベスト10

池	個体数	河川	個体数	全体	個体数
ハシビロガモ	132	オオバン	253	オオバン	330
カルガモ	83	ヒドリガモ	93	ヒドリガモ	134
オオバン	77	コガモ	86	ハシビロガモ	132
ホシハジロ	57	カルガモ	48	カルガモ	131
ヒドリガモ	41	カワウ	41	コガモ	89
カワウ	25	ハクセキレイ	33	カワウ	66
キンクロハジロ	22	セグロセキレイ	24	ホシハジロ	64
オナガガモ	19	オカヨシガモ	16	ハクセキレイ	42
マガモ	16	ユリカモメ	14	オカヨシガモ	28
バン	5	アオサギ	9	セグロセキレイ	26

環境交流センター1期目のふりかえり

環境交流センター

NPOアジェンダは、平成25年4月1日から豊中市立環境交流センターの指定管理者として運営してきました。平成30年(2018年)3月31日をもって5年間の指定管理期間が終了し、この4月から2期目がスタートしています。今回は1期目の総括を紹介します。

環境交流センターは、地球温暖化の防止に資するとともに、循環型社会の形成を図る拠点として、また、環境学習を推進する施設として位置づけられています。施設の事業目的は、NPOアジェンダが推進する「豊中アジェンダ21」の内容と一致するところであり、施設の運営を通して「豊中市環境基本計画」と「豊中アジェンダ21」が共有する「望ましい環境像」の実現、および「豊中アジェンダ21」の88項目の行動提案の達成をめざして、施設を管理・運営してきました。

年間の来場者1万人の目標に対して、この5年間で来場者は順調に増え、年間来場者数は平均すると16,414人でした。幼児から年配までのあらゆる世代の方が利用しており、環境に関心のない人にはホッと一息つける地域の場所に、環境などの活動に取り組んでいる人には活動拠点になりつつあります。また、貸室の稼働率も年々向上し、2017年度は、67.6%の稼働がありました。

●多様な価値をつなげる交流の場

環境問題は様々な分野と関係していることから、センターでは、物事を多角的に見る視野、繋がりを捉える力を育むことが、環境活動は重要であると考え、多様な市民が集い意見を交わす場や、社会や環境について考える場を設けてきました。

例えば、2013年度から2016年度に開催した「リユース手しごと市」では、環境分野にとどまらず、まちづくり、健康、福祉、国際等の分野で活動する市民・団体と共にイベントを行いました。市民にとっては、社会に多くの課題があり、それらがつながっていることに気づく場となりました。また、出店団体からも「違う分野の団体との連携が生まれ、活動の広がりが出た」などの声を聞いています。多様な人が繋がり、協力しあう関係を広げることが、人と環境にやさしい社会への近道と信じています。

●人と環境をつなげる講座の実施

環境問題の多くは、生活者一人ひとりがその責任を負っていますが、ともすれば「他人事」として片づけてしまいがちです。そこで、センターでは、整理収納や掃除など、暮らしに近いテーマの講座を開催し、環境への関心が少ない層が興味を持つきっかけとなるように努めてきました。

また、講義形式の講座にとどまらず、参加・体験を通して問題の解決策を考える講座を多く開催。例えば、3Rの実践講座では、食事のメニューづくりを通してフードマイレージについて学んだり、調理を通して省エネとごみ減量について考えるなどしました。帰ってからの行動につながる内容に設定することで、主体的に環境活動に取り組む人を増やすねらいです。実際、この試みは成功し、センターの様々な講座参加者の中には、私生活での実践を伝えに来てくれる人、講座をきっかけに地域の活動をはじめた人、受講者同士で新たな団体を立ち上げた人も現れました。持続可能な地域づくりに共に取り組む仲間が増え、環境活動がますます波及していくことを願っています。

●これからの環境交流センターは

新たに「誰もが集える交流空間から」、「気づきから実践に向けて」、「地域と共に歩む施設へ」の3つをコンセプトに掲げ、施設の運営を行います。具体的には、年齢・性別・身体・国籍など様々な特性をもつ人が気軽に利用できる施設づくりに取り組むほか、利用者の環境への関心を地域での実践につなげられるよう、様々な関心レベルに応じた事業・サポートを行います。また、豊中市内外の多様な主体と協力し、持続可能な地域づくりに取り組むネットワークを構築していきます。今後も引き続き、センターの応援をどうぞよろしくお願いします。

（前川遥）

事業部会

企業と環境⑱ 豊中の地で60年の農業資材メーカー

田中産業株式会社は、昭和29年に庄内西町で創業し、数年前に現在の浜1丁目に移転した、従業員30名ほどの農業資材の開発・生産・販売を行う事業所です。

田中産業の伊良皆専務によると、30名ほどの小規模な事業所ですが、営業拠点は豊中のほかに北海道・東北・関東・関西・中四国・九州の6か所にあり、その製品は日本全国の農業現場で使用されているとのことでした。

ゴアテック製の農業用雨合羽と共に(右:伊良皆専務　左:西村所長代理)

同社の主力製品はふたつあり、そのひとつは米穀類を大量に輸送するための輸送バッグです。これは、大型農家・大型施設では必要不可欠な輸送バッグとして、国内の農業用輸送バッグの70%弱のシェアを占めています。もうひとつは、日本ゴア株式会社と共同開発したゴアテック製の農業用雨合羽です。これは、風速40メートルの風雨にも耐え得る防水機能と優れた透湿性を持つ製品として農業従事者に愛用され、発売以来今年で100万着売上げる見込みです。

従業員30名ほどの田中産業がこのような製品を作り出せたのは、同社が創業以来「農業従事者の役に立ちたい。健康に寄与したい。安心に繋がる製品を開発したい。」との思いを持ち続け、各地の営業所に寄せられる農家の方々の声を農業資材の開発・生産に活かしてきたからに他ならないと、伊良皆専務は語ってくれました。

農業があまり盛んとはいえない豊中の地で60年以上にわたって農業資材の開発等を続けてきた田中産業ですが、事業者として、地域の環境問題に貢献したいとの思いから、都市部では可燃ごみとして焼却されてしまう落ち葉を堆肥化するバッグを開発してきました。そして、この堆肥化バッグを市内の小学校や、花と緑のネットワークを通じて募った市民モニターに無償配布し、落ち葉堆肥化活動の支援を行ってきましたが、この取り組みが評価され、2013年にはとよなかエコ市民賞を受賞しました。

伊良皆専務のお話を聞き、日本各地の農業現場で使用されている農業資材を取扱う事業所が豊中の地にあるということを初めて知り、驚くとともに、今後、堆肥化バッグを通じて、田中産業さんと豊中の繋がりがもっともっと広く深くなっていくことを期待したいと思いました。　（荒井秀夫）

環境とわたし《54》

木村恵子さん

花と緑のネットワーク

振り返ってみれば、箕面や能勢での間伐体験・都市緑化植物園での園芸ボランティア等植物に親しんできました。時間的な余裕もできた2年前、かねてから憧れていた野菜作りをしようと市民農園を借りたものの、何から始めようかと思案していた頃に市広報で野菜塾生募集を目にして早速応募。約半年間、野菜塾長やリーダーの下で春夏野菜や秋冬野菜作りを学ぶ傍ら、学んだことを自身の畑で実践、お陰様で大満足の野菜を収穫できました。

翌年、野菜塾を主催していた花と緑のネットワークとよなかに入会、月1回とよっぴーで育てられた野菜を販売、その他イベントのお手伝いをするようになってアッという間に1年が過ぎました。当初は10時野菜販売開始にも関わらず、9時過ぎから並ばれるお客様に驚きつつ、現在はお客様の「美味しかった！」との言葉を励みに活動しています。

今年は市民農園デビュー3年目、過去の失敗を糧に「プリンスメロン」に挑戦しています。

野菜作りは自然環境・病害虫・鳥等との根競べ、頭を柔軟に楽しみながら続けていければと思っています。

～ 豊中市からのお知らせ ～

雨水貯留タンク設置助成 受付中

雨水利用とは・・・？

雨水利用とは、屋根などに降った雨水をいったんタンクに貯めて、花壇や菜園への水やりや庭先への打ち水などに有効利用することです。

☆植物への散水などに雨水を有効利用でき、一斉に雨水が下水管に流れ込むことを防ぐ治水対策設備としても役立つ雨水貯留タンク（80ℓ以上貯留できるもの）の購入額の２分の１を助成（複数設置の場合は上限３万円、共同住宅などは９万円）します（先着順）。ただし、１基の場合は２万円を助成。

☆市内に同タンクを設置する場所を用意できる人。助成決定後に購入してください。

☆申込みは環境政策課へ

※申込用紙は環境政策課窓口または、豊中市のホームページからでも取りだせます。

【お問合せ先】　豊中市環境部環境政策課　電話：06-6858-2107

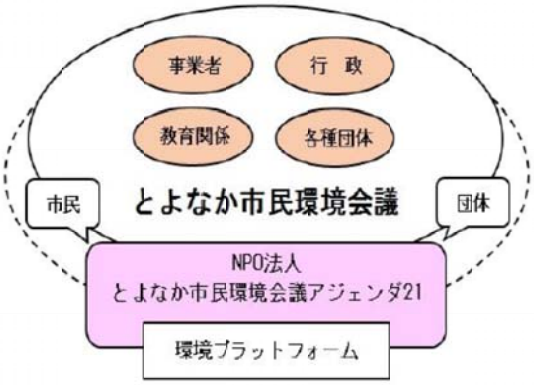
とよなか市民環境会議に参加しませんか！

とよなか市民環境会議とは...

平成８年(1996年)５月に市内153団体(当時)の参加のもと、環境問題に取り組む市民･事業者･行政のパートナーシップ組織として発足しました。平成11年(1999年)３月には、地球環境を守る市民･事業者･行政の行動計画「豊中アジェンダ21」を策定し、豊中独自の環境保全活動に取り組んでいます。豊中市長が会長を務め、現在138団体が参加しています。

主な活動内容として、年に１度の総会のほか、役員会や平成19年度(2007年度)に創設した「とよなかエコ市民賞」の選考･表彰、市や関係団体の環境に関する情報提供などを行っています。

活動団体として登録される場合、年会費等の費用は一切不要です！
ぜひ、ご参加ください！！



【お問合せ先】　とよなか市民環境会議事務局　（豊中市環境部環境政策課）電話：06-6858-2128

スケジュール

詳しくは、ホームページや広報、環境交流センターのおしらせをご覧ください。

竹炭焼き、竹の間伐体験冒頭
千里中央公園
ほぼ毎月開催　詳しくは事務局まで

とよっぴー地産地消採りたて野菜市
毎月第4木曜日 10:00～売切れまで
さわ病院

おもちゃ病院
偶数月の第2土曜日　10:00～11:30
環境交流センター
1世帯1点まで、修理費実費

とよっぴーの有料配布
6月27日（水）7月14日（土）
8月22日（水）
10:00～11:00
緑と食品のリサイクルプラザ

自然学習講座
その地域の自然の達人・トコロジストになろう
6月24日（日）14:00～16:00
中央公民館
日本野鳥の会普及室室長代理　箱田敦只さん
定員40人（先着順）6月22日（金）締切

赤坂下池 ツバメのねぐら入り観察会
8月4日（土）18:00～19:30（現地解散）
大阪モノレール柴原駅南側階段下集合
定員30人（先着順）、8月2日（木）締切

親子で楽しくエコショップ巡り
～エコショップ探訪と、親子環境クイズ～
8月8日（水）9:30~12:30（コープ桜塚解散）
環境交流センター集合
小学生と保護者20人（先着順）　参加費100円
8月1日（水）10:00から電話受付

編集室から

▼「第3次豊中アジェンダ２１」策定委員会を先日終えた。2年間に及ぶ市民・事業者・行政の各委員の協働作業は、このアジェンダ21の担い手は？第3次の特徴は？などの論議。しんどくもあり、楽しい時間でもあった。今後の展開が楽しみだ。（E）

▼書棚の片付けが最近の私の日常のひとつになっているが、『昭和史』と題した本が出てきてつい読みたくなる。1959年の発行だが昭和の前半は戦争の時代だったのだなあという想いとともにもう少ししっかり読み込みたいと、処分できずに書棚に戻す。（Z）

▼水の惑星、地球には約870万種の生物が水を源に生存する。生物は食べる物と食べられる物の存在により生命が維持されている。尚、生物は必ず死亡する。死体は他の生物の餌である。この現象こそ見事な食物連鎖を形成している。（S）

▼インドネシア青年が、豊中で講演。農業不振で違法な熱帯林伐採をしていた。今は森の守り手として、防火や原生種での植林に活躍。有機農業に情熱を燃やし、自然と共生する村をめざす。希望の村の苗づくりを応援したい。（I）

▼今年も夏がやってきました。わが子は毎年プールを楽しみにしています。私もビニールプールに足をつけ涼みながら、子がキャアキャア遊ぶ姿を見るのが楽しみです。みなさま熱中症に気をつけて夏を楽しんでください。（Y）

▼毎年ゴーヤカーテンを作っている。今年は昨夏落ちた種が芽を出してくれ、費用は0円だ。栄養価の高い実は提供してくれるし、何と手のかからない優秀な子なのか！このようにお気に入りの野菜ではあるが、初対面の感想は「イグアナ？」であった。（M）

▼点字の勉強を始めた。6つの点の組み合わせで、平仮名、数字、アルファベット等を表現する。商店で、シャンプー、洗顔、食品パッケージ等、様々なものに点字が付いているのを発見。でも、まだまだ数は多くない。点字文化がもっと広がればいいと思う。（O）

《広報ﾁｰﾑ》
E新開、Z奥野、S猪尾、I井下、Y結城、M村上、O前川

とよなか市民環境会議アジェンダ２１
TEL：06-6844-8611
Eメール：jimukyoku@toyonaka-agenda21.jp
http://toyonaka-agenda21.jp/
豊中市立環境交流センター
http://kankyokoryu.jp/